

平成25年度

横浜国立大学大学院
都市イノベーション学府

博士課程前期
学生募集要項

目 次

I	はじめに	・・・ 1 頁
II	一般入試学生募集要項	・・・ 2 頁
	「特別選抜」と「筆記試験選抜」のプロセス	・・・ 9 頁
	コース（専攻・コース）の説明	・・・ 10 頁
III	私費外国人留学生特別入試募集要項	・・・ 15 頁
	コース（専攻・コース）の説明	・・・ 21 頁
IV	大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例 による教育の実施について （社会人技術者又は研究者に対する大学院教育の特例） 長期履修学生について	・・・ 25 頁
V	身体に障害のある入学者の事前相談について	・・・ 28 頁
VI	検定料の返還を請求する場合について	・・・ 29 頁
VII	各コース等問い合わせ先担当教員一覧	・・・ 30 頁
VIII	担当教員一覧	・・・ 31 頁
IX	提出用書式集	・・・ 36 頁

用語に関する注意点：この学生募集要項では「博士課程の前期二年の課程」は「博士課程前期」とし、
また「博士課程の後期三年の課程」は「博士課程後期」として表記しています。

I はじめに

本冊子「平成25年度横浜国立大学大学院都市イノベーション学府博士課程前期学生募集要項」には、平成25年4月に横浜国立大学大学院都市イノベーション学府博士課程前期へ入学を希望する人に必要な情報が書かれています。

内容は多岐にわたっていますので、入学を希望する人は本冊子をよく読んで自分に必要とされる情報を正確に取得し、間違いのないように出願手続きを行ってください。

不明なところがある場合は、30ページの問い合わせ先一覧を参照してお問い合わせください。

また、コースにより必要に応じて、あらかじめ 志望先教員とよく相談した上で願書を提出してください。

個人情報の取扱いについて

志願者の入学試験成績及び出願書類等に記載された個人情報については、本学入学選抜に係る用途の他、本人の申請に伴う入学料免除等の福利厚生関係の資料及び本学における諸調査・研究にも利用することがあります。調査・研究結果を発表する場合は個人が特定できないように処理します。それ以外の目的に個人情報が利用又は提供されることはありません。

Ⅱ 一般入試学生募集要項

1. 出願資格

次のいずれか一つに該当する者

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者または平成25年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者または平成25年3月31日までに学士の学位を取得見込みの者^[注2]
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者または平成25年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者または平成25年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了した者または平成25年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (8) 個別の審査により、大学を卒業したと同等以上の学力があると本学府が認めた者で、平成25年3月31日までに22歳に達する者^[注3、4]

[注1] 上記以外の出願資格は認定しません。

[注2] 出願資格（2）における平成25年3月31日までに学士の学位を取得見込みの者とは、学位規則第6条第1項の規定に基づき大学評価・学位授与機構が定めている要件を満たすものと認定した短期大学および高等専門学校に置かれた専攻科修了見込みの者で、平成24年10月までに大学評価・学位授与機構に学位の授与を申請した者です。

[注3] 出願資格（8）に該当するものとは、上記（1）～（7）に該当しない者で、本大学院の個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等の学力があると認めた者で、平成25年3月31日までに22歳に達する者です。

※主に該当する者は、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者など大学卒業資格を有していない者、または大学卒業までに16年を要しない国の大学を卒業した者で、大学教育修了後、日本国内または外国の大学、国立大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において、研究生、研究員等として1年以上研究に従事した者です。

[注4] 出願資格（8）により出願しようとする場合は、あらかじめ志望先の教員と相談のうえ、**平成24年5月21日（月）から5月23日（水）17時まで**の間に下記の書類を大学院都市イノベーション学府係まで提出し、出願資格の認定を受けてください。出願書類の受付は、郵送もしくは大学院都市イノベーション学府係の窓口への提出とし、期間内必着とします。出願資格認定審査は、本学大学院都市イノベーション学府において行い、審査の結果は**平成24年6月8日（金）**発送の郵便で本人宛に通知します。

※出願資格（8）により出願を希望する者

- (1) 出願資格認定申請書（書式4）
- (2) 出願資格認定用経歴調書（書式5）
- (3) 最終学歴の卒業（見込み）証明書又は在学期間（見込み）証明書
- (4) 最終学歴の成績証明書
- (5) 研究業績調書（書式6）

- (6) 研究計画書（書式7）
- (7) 350円の切手（速達料を含む）を貼付した住所及び氏名明記の返信用封筒（長3）

[注4]により出願資格を有すると認められた者は、**平成24年6月18日（月）から6月21日（木）**に所定の出願手続きをしてください。（一度提出した書類は、出願手続の時必要としません。）

その他、出願資格について不明な点は大学院都市イノベーション学府係に問い合わせてください。

2. 一般入試募集人員

専攻	コース	募集人員
建築都市文化専攻 注(1)	建築都市文化コース	50
	建築都市デザインコース(Y-GSA)	18
	横浜都市文化コース(Y-GSC)	若干名
都市地域社会専攻 注(2)	都市地域社会コース	37
	国際基盤学コース(IGSI)	若干名

①出願上の注意

注(1) 建築都市文化専攻志望者

建築都市文化専攻は、建築都市文化コース、建築都市デザインコース（Y-GSA）及び横浜都市文化コース（Y-GSC）の3コースで募集します。

建築都市文化コースの入試には「建築系問題」と「都市文化系問題」があります。

志願する者は、出願時に志望するコース及び問題を選択してください。

建築都市デザインコース（Y-GSA）を志願する場合は、出願書類に指導教員の名前を書く必要はありません。

注(2) 都市地域社会専攻志望者

都市地域社会専攻は、都市地域社会コース及び国際基盤学コース（IGSI）を併せて募集します。

都市地域社会コースの入試には「都市基盤系問題」と「地域社会系問題」があります。

志願する者は、出願時に志望するコース及び問題を選択してください。

※国際基盤学コース(IGSI)では、すべての講義とスタジオ教育、修士論文指導が英語で行われます。

注(3) 建築都市文化コース「建築系問題」、都市地域社会コース、国際基盤学コース(IGSI)を志願する者は、願書提出前に志望先教員あるいは問い合わせ先担当教員と相談してください。建築都市文化コース「都市文化系問題」、建築都市デザインコース（Y-GSA）、横浜都市文化コース（Y-GSC）では、入試前に教員と受験者との事前の面談は行っていません。問い合わせ先教員等は、30ページを参照してください。

②第2志望制について

志望する専攻・コース及び問題によって、下記のとおり第2志望を希望することができます。第2志望を希望する場合は、入学願書の第2志望欄に必要事項を記入してください。

(1) 建築都市文化専攻を第1志望とする場合

第2志望を選択できるのは、以下の組み合わせです。

第1志望	第2志望が可能なコースと問題
建築都市文化コース「建築系問題」	
建築都市文化コース「都市文化系問題」	横浜都市文化コース（Y-GSC）
建築都市デザインコース（Y-GSA）	
横浜都市文化コース（Y-GSC）	建築都市文化コース「都市文化系問題」

- (2) 都市地域社会専攻を第1志望とする場合
第2志望を選択できるのは、以下の組み合わせです。

第1志望	第2志望が可能なコースと問題
都市地域社会コース「都市基盤系問題」	国際基盤学コース (IGSI)
都市地域社会コース「地域社会系問題」	
国際基盤学コース (IGSI)	都市地域社会コース「都市基盤系問題」

3. 入学者選抜方法

一般入試では、「特別選抜」又は「筆記試験選抜」によって入学者選抜を行います。

※1 9ページの、「選抜のプロセス」を参照してください。

※2 建築都市デザインコース (Y-GSA) では特別選抜を行いません。

(1) 特別選抜

特別選抜を志願できる者は、出身大学内での**成績順位が上位1/3以内**でなければなりません。なお、やむを得ず成績順位を出していない大学からの出願者は総修得単位に占める**評価点80点以上の評価が1/2以上**でなければなりません。

また、特別選抜の受験を希望する者に対しては、「6. 特別選抜の実施方法」により受験資格を認定し、受験資格者に対してのみ特別選抜を行います。

志願する者は、事前に指導を希望する教員とコンタクトを取ったうえで、申請してください。

※なお、特別選抜を受験し不合格であった場合は、改めて出願書類(検定料を含む)を提出しなくても「筆記試験選抜」を受験することができます。

(2) 筆記試験選抜

筆記試験選抜は、外国語、専門科目試験、口述試験等により行います。

4. 出願期間

平成24年6月18日(月)から6月21日(木)までとします。

出願書類の受付は郵送扱いのみで、**期間内必着**とします。窓口受付は行いません。

受付期限後到着のものは受理しないので、郵便事情を十分考慮し早めに送付してください。

ただし、**平成24年6月20日(水)までの発信局消印のある書留速達**に限り、期限後に到着した場合でも受理します。

〔注〕 土曜日、日曜日、休日は、郵便業務を行わない郵便局があるので事前に確認してください。

5. 出願手続

出願する者は、下記の書類及び入学検定料を添えて、本学所定の封筒を使用し、志望コース及び問題等を記入の上、書留郵便で送付してください。

出願書類等	注意事項	書式番号
入学願書	用紙は本学交付のもの。(表・裏有り。)	1
卒業(見込)証明書	出身大学(在籍大学)作成のもの。	
最終学歴成績証明書	出身大学(在籍大学)の学長又は学部長により作成されたもの。	
写真	縦4cm、横3cmのもの2枚。(出願前3か月以内に撮影したもの。) 写真は受験票及び入学願書に貼付してください。	

入学検定料	<p>払込金額：30,000円 払込期間：出願期間に間に合うように払い込んでください。 払込場所：</p> <p>① 海外在住の志願者及び日本国内居住の外国人留学生志願者 クレジットカード（VISA・MasterCard・JCB・American Express・MUFG・DC・UFJ・NICOS）・中国銀聯ネット決済により払込むことができます。 詳細は本学ウェブサイト（http://www.ynu.ac.jp/）の「入試・入学」のページをご覧ください。</p> <p>② 日本国内居住の日本人及び外国人留学生志願者 【郵便局・ゆうちょ銀行の場合】 ・土曜日・日曜日・休日は払込ができませんので注意してください。 ・本冊子綴じ込みの、本学所定の「払込書」を使用してください。（ATMから払込むことはできません。必ず受付窓口で払込んでください。） ・「払込取扱票」のご依頼欄に、入学志願者（本人）の住所・氏名・電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。 ・「振替払込受領証」および「振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、必ず受付局日附印を確認してください。</p> <p>【コンビニエンスストアの場合】 *セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルK・サンクスのみ ・店内にある情報端末機を利用して払込を行ってください。（ATMでは振込できません。必ずレジで払込んでください。） ・操作の手順は、別紙の案内書「入学検定料支払い方法のご案内」を参照してください。</p> <p>[注1] 振込済みの「郵便振替払込受付証明書」、「収納証明書」、「支払い完了通知のメール画面を印刷したもの」を所定の貼付用紙（書式14）の欄に貼り付けて出願書類に同封してください。入学検定料が払込まれていない場合やそれらを貼り付けていない場合は出願を受理しません。</p> <p>[注2] 各支払に係る手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>[注3] 日本政府（文部科学省）国費留学生は不要です。（出願の際、必ず国費給与証明書を同封してください。）</p>	14
研究計画書	<p>指導教員を希望した理由、現在までの学業との関係及び入学後の研究計画をA4版用紙1ページにまとめたもの。志望コース、指導を希望する教員名、氏名を記入してください。 作成に当たっては疑問点があれば各コースの問い合わせ先担当教員（P.30）あるいは希望する指導教員に問い合わせてください。</p> <p>※「建築都市文化コース建築系問題」及び「建築都市デザインコース(Y-GSA)」の志願者は提出不要です。</p>	7
返信用封筒1通 (特別選抜希望者は2通)	<p>本冊子綴じ込みの長形3号の封筒に住所、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手（350円）を貼付してください。</p>	
住所氏名記入シール	<p>用紙は本学交付のもの。住所、氏名、郵便番号を記入してください。（切り離さないでください。）</p>	
外国人留学生履歴書	<p>※外国人の出願者のみ 用紙は本学交付のもの。記入は日本語又はローマ字体を用いてください。〔但し出願資格（1）による出願者は除きます。〕</p>	11
登録原票記載事項証明書	<p>※外国人の出願者のみ 出願前3か月以内に交付されたもの。 日本に居住する外国人は、市区町村長の発行する登録原票記載事項証明書を提出してください。その他の外国人は、パスポートの写しを提出してください。</p>	

〔注1〕特別選抜の受験を希望する者は、上記に加えて次の書類を提出してください。

特別選抜受験希望に係る出願書類	注意事項	書式番号
出願資格証明書	成績順位の記述または総単位に占める評価点 80 点以上の評価の割合の証明書。用紙は本学交付のものを使用し、厳封してください。	8
推薦書	特別選抜を受験することに関する推薦書。 記述は、受験者を良く知る者（指導教員等）であれば構いません。 ただし、やむを得ず記述する者がいない場合は、自己推薦書でもかまいません。	9
入学確約書		10

6. 特別選抜の実施方法

(1) 受験資格の認定方法

特別選抜の受験希望者については、出願時に提出した出願書類によって、受験資格者を決定します。

なお、出願有資格者のうち、特別選抜の受験有資格者とならなかった者は、筆記試験選抜で受験することができます。

受験資格の認定結果は、**平成24年7月6日（金）** 発送の郵便で通知します。

(2) 特別選抜の選抜方法

受験資格認定者に対して、口述試験、面接及び出願書類審査により選抜を行います。

(3) 特別選抜実施日時

平成24年7月17日（火）～7月18日（水） に実施します。

日時と場所についての通知は、**平成24年7月6日（金）** に発送します。

試験の結果は**平成24年7月27日（金）** 発送の郵便で通知します。

その結果合格とならなかった者は、筆記試験選抜を受験することができます。

7. 筆記試験選抜の検査科目及び日時

(1) 筆記試験選抜日時

期 日	科 目 名
8月21日（火）～8月22日（水）	外国語（注）参照
	学科試験Ⅰ
	学科試験Ⅱ（筆記）
	学科試験Ⅱ（面接・口頭試問・口述試験）

・詳細は、P. 10 以降の各コースの説明を参照してください。

・受験者は、語学以外の学力検査科目に限り語学の辞書を使用することができますが、電子辞書は使用できません。

・筆記試験及び面接の教室割等は、平成24年8月3日（金）15時以降から試験当日までの間、大学院都市イノベーション学府掲示板に掲示します。（巻末地図参照）

(注)入学試験科目の外国語試験について

本学府入学試験における外国語の試験は、「英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）」とします。ただし、都市地域社会専攻都市地域社会コースの「地域社会系問題」を志望する者については、研究希望内容により英語に代えて、②のとおり、他の外国語を受験科目とすることができますので、出願時にいずれかを選択してください。

① TOEIC、TOEFL、IELTS スコアについて

- 対象となる試験と提出するスコア証明書（原本のみ、コピー不可）は以下のとおりです。

対象となる試験	提出するスコア証明書
TOEIC または TOEIC-IP	Official Score Certificate (公式認定証) TOEIC-IP についてはスコアレポート
TOEFL (PBT、iBT、ITP)	Examinee Score Report (受験者用控えスコア票) TOEFL-ITP についてはスコアカード
IELTS	Test Report Form (公式の成績証明書)

- 学科試験当日に合計得点の最も高いスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を提出すること。なお、提出可能なスコア証明書は学科試験当日から起算して2年以内のものとなります。これらの提出がない場合は外国語（英語）の試験の点数を0点とみなします。なお、提出されたスコア証明書は面接時に返却します。
- TOEIC のスコアは、下記の関係を用いて 100 点満点に換算し、外国語（英語）の点数とします。

換算方法（TOEIC ベース）

349 点以下：	0 点
350～500 点：(TOEIC-350) /3	0～ 50 点
500～800 点：(TOEIC-500) /6+50	50～100 点
801 点以上：	100 点

- TOEIC と TOEFL の得点の換算に関しては、TOEFL の得点を以下の方法により TOEIC の得点に換算します。

○TOEFL-iBT の得点は Educational Testing Service (ETS) のウェブサイトにある換算表により TOEFL-PBT の得点に換算する。TOEFL-ITP の得点は TOEFL-PBT の得点とみなします。

○TOEFL-PBT の得点は、 $(\text{TOEFL-PBT 得点} - 296) \div 0.348 = \text{TOEIC 得点}$ により TOEIC の得点に換算します。

- IELTS の得点の換算については、以下のとおりとします。

7 点以上の場合：	100 点
4 点以上 7 点以下の場合：	$(\text{IELTS} - 1) \times 50/3$ 点
3 点以上 4 点以下の場合：	$(\text{IELTS} - 3) \times 50$ 点
3 点以下の場合 換算得点：	0 点

- 小数点以下の得点は四捨五入します。

- ② 都市地域社会専攻都市地域社会コースの「地域社会系問題」を志望する者については、研究希望内容により英語に代えて以下の外国語を受験科目とすることができます。希望する場合には、事前に指導を希望する教員と連絡を取ったうえで、出願時に受験する下記外国語科目を選択してください。（出願時に必ず願書に記載すること。）

- ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語、スペイン語

※CEFR 準拠検定試験のスコアについて

ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語を選択する場合、CEFR 準拠検定試験のスコアをもって筆記試験に換えることができます。

- 対象となる試験（以下のスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を提出してください。）

- ドイツ語 Zertifikat Deutsch、Goethe-Zertifikat、TestDaf、TELC 等
- フランス語 DALF、DELF、TCF 等
- ロシア語 TRKI 等
- スペイン語 DELE あるいは西検等

- ・学科試験当日に合計得点の最も高いスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を提出してください。
なお、提出可能なスコア証明書は学科試験当日から起算して2年以内のものとする。これらの提出がない場合は外国語の試験の点数を0点とみなします。なお、提出されたスコア証明書は面接時に返却します。
- ・CEFR 準拠検定試験のスコアは下記の関係を基本として、各検定試験の該当レベルでのスコアを換算し外国語の点数とします。

換算方法

A1	10 点
A2	40 点
B1	70 点
B2	90 点
C1, C2	100 点

8. 合格者発表

平成24年9月13日（木）15時頃に都市イノベーション学府掲示板に掲示するとともに、9月13日（木）発送の郵便で合格者には通知します。

なお、電話による照会には応じません。

募集人員に欠員が生じた場合は、追加合格により補充する場合があります。

追加合格の通知は、入学願書に記載された現住所への電話連絡及び郵便により行います。追加合格に関する問い合わせは一切受け付けません。

9. 入学時に必要な経費

- (1) 入学料 282,000円（現行）

〔ただし、日本政府（文部科学省）国費留学生は不要です。〕

- (2) 授業料 年額 535,800円（現行）

〔ただし、日本政府（文部科学省）国費留学生は不要です。〕

〔注1〕 入学料は、入学手続期間（**平成25年3月11日（月）～3月14日（木）（※3月12日（火）は窓口受付は行いません。**））に納入してください。詳細は、手続き書類と一緒に平成25年2月下旬に郵送します。

上記の手続き期間内に手続きを完了しない場合には入学辞退者としてします。

〔注2〕 入学料及び授業料は、改定される場合があります。

〔注3〕 在学中に授業料の改定が行われた場合、改定時から新しい授業料が適用されます。

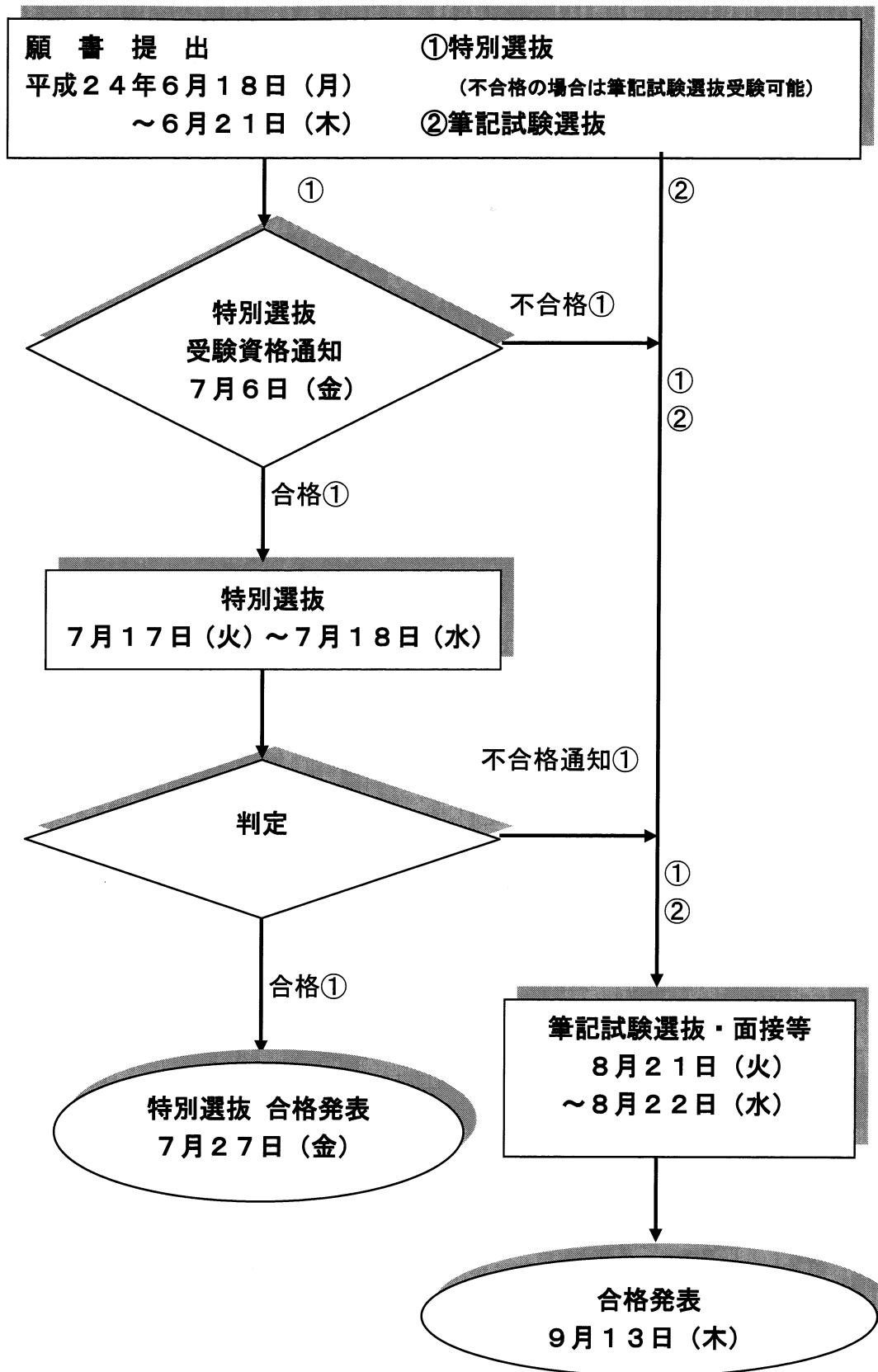
10. 注意事項

- (1) 試験当日は必ず受験票を携帯してください。
- (2) 出願手続後の提出書類の内容変更は認めません。
- (3) 官公庁又は会社等に在職している者は、入学手続の際、その長又は代表者の就学承認書（様式は任意）を必要としますので、あらかじめ用意してください。
- (4) 入学試験に関する問い合わせは、返信用封筒（住所、氏名を明記し、80円切手を貼付）又は返信用はがきを同封し、大学院都市イノベーション学府係宛てに照会してください。
- (5) 本試験に関する変更等が生じた場合は、直ちに出席者に通知します。
- (6) 各コースから課された入学試験科目（学科試験、面接）の1科目でも受験しなかった場合は、失格となりますのでご注意ください。
- (7) 入学手続き後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしません。
- (8) 入学後の経済支援制度として、「入学料・授業料免除等制度」・「奨学金制度」等があります。

11. 各コース問い合わせ先一覧

問い合わせ先は、30ページを参照してください。

「特別選抜」と「筆記試験選抜」のプロセス



入学手続き：平成25年3月11日(月)~3月14日(木)
(※3月12日(火)は窓口受付は行いません。)

コース説明 1

建築都市文化専攻 建築都市文化コース（建築系問題、都市文化系問題）

1. 学力検査内容

学力検査は「特別選抜」と「筆記試験選抜」のいずれかによって行われます。

(1) 特別選抜

試験内容	基礎科目（外国語を含む場合がある）、専門科目等に関する口述試験
------	---------------------------------

(2) 筆記試験選抜

外国語	100点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）P. 6～8 参照
学科試験 I	200点	①建築史・建築芸術、建築計画 ②都市計画、都市環境管理計画 ③建築材料構法、建築環境工学 ④建築構造学 ⑤映像史・映像論 ⑥音楽音響史・音楽音響論 ⑦現代アート・現代思想 ⑧現代文芸・都市文化論 の8分野の中から、第一志望教育分野に関する科目を含めて2分野 選択すること。
学科試験 II	200点	建築系問題志望者に対しては、建築史・建築芸術、建築計画、都市 計画、都市環境管理計画、建築材料構法、建築環境工学、鋼構造学、 鉄筋コンクリート構造学の中から、第一志望分野に関する1科目を 選択する筆記試験と面接を行う。 都市文化系問題志望者に対しては、研究計画書等にもとづいて、専 門分野に係る面接を行う。

2. 検査科目及び日時

(1) 特別選抜

7月17日（火）～7月18日（水）に実施します。

日時と場所についての通知は、7月6日（金）に発送します。

試験の結果は7月27日（金）発送の郵便で通知します。その結果合格とならなかった
者は、筆記試験を受験する事ができません。

(2) 筆記試験選抜

①建築系問題志望者

期 日	科 目 名	時 間
8月21日（火）	英 語 [※] （注）P. 6～8 参照	—
	学科試験 I	9時00分～11時00分
	学科試験 II（筆記試験）	12時30分～14時00分
8月22日（水）	学科試験 II（面接）	14時00分～

②都市文化系問題志望者

期 日	科 目 名	時 間
8月21日（火）	英 語 [※] （注）P. 6～8 参照	—
	学科試験 I	9時00分～11時00分
	学科試験 II（面接）	13時00分～

【注意事項】

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I の試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を回収します。
- ・学力検査、面接の場所：横浜国立大学常盤台キャンパス
- ・学科試験 I、II（筆記試験）では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

コース説明 2

建築都市文化専攻 建築都市デザインコース (Y-GSA)

1. 学力検査内容

学力検査は「筆記試験選抜」によって行われます。

(1) 筆記試験選抜

外国語	100点	英語 (TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜) P.6~8 参照
学科試験 I	200点	①建築史・建築芸術、建築計画 ②都市計画、都市環境管理計画 ③建築材料構法、建築環境工学 ④建築構造学 ⑤映像史・映像論 ⑥音楽音響史・音楽音響論 ⑦現代アート・現代思想 ⑧現代文芸・都市文化論 の8分野の中から、2分野選択すること。
学科試験 II	300点	「即日設計」：与えられた設計課題をA2版の用紙にプレゼンテーションする。(200点) 「ポートフォリオおよび面接」：自作の建築作品2点で構成するものを提出、口頭試問を受ける。(100点)

備考1 「ポートフォリオ」は、自作であることを証明できる建築作品2点で構成するものを提出します。そのポートフォリオのサマリーも提出します。

注1) 自作であることの証明：大学の検印 (図面に直接押印されたもの)、コンペの応募控え (原本) 等と指導教員による証明書。証明書は本学指定の書式を用いてください。(書式12)

注2) 作品及び証明書類はA2版のクリアファイル1冊にまとめ、必ず表紙に受験番号を表記して提出してください。

注3) ポートフォリオサマリー：建築作品2点の内容を図版を用いてA4用紙1枚に要約したものです。ポートフォリオサマリーには受験番号を記入してください。

備考2 「即日設計」は与えられた設計課題を5時間でA2版ケント紙1枚にプレゼンテーションするものです。

注1) 製図板、A2版ケント紙、トレーシングペーパーは試験会場で用意されます。紙類 (トレーシングペーパー、方眼紙、ケント紙等) の持ち込みはできません。

注2) 表現はフリーハンドでよいが、必要ならばT定規、勾配定規、ドラフティングテープ等は持参すること。それ以外、他の受験生に迷惑のかからないプレゼンテーション道具の使用は自由です。

注3) 平行定規、PC、プリンターは使用できません。

2. 検査科目及び日時

(1) 筆記試験選抜

期 日	科 目 名	時 間
8月21日 (火)	英 語 [※] (注) P.6~8 参照	
	学科試験 I	9時00分~11時00分
	学科試験 II (即日設計)	12時30分~17時30分
8月22日 (水)	学科試験 II (面接)	12時30分~

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I の試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書 (原本のみ、コピー不可)、ポートフォリオおよびポートフォリオサマリーを回収します。
- ・学力検査、面接の場所：横浜国立大学常盤台キャンパス
- ・受験にあたっての指示事項：学科試験 I では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

コース説明 3

建築都市文化専攻 横浜都市文化コース (Y-GSC)

1. 学力検査内容

学力検査は「特別選抜」と「筆記試験選抜」のいずれかによって行われます。

(1) 特別選抜

試験内容	基礎科目 (外国語を含む場合がある)、専門科目等に関する口述試験
------	----------------------------------

(2) 筆記試験選抜

外国語	100点	英語 (TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜) P.6~8 参照
学科試験 I	200点	①建築史・建築芸術、建築計画 ②都市計画、都市環境管理計画 ③建築材料構法、建築環境工学 ④建築構造学 ⑤映像史・映像論 ⑥音楽音響史・音楽音響論 ⑦現代アート・現代思想 ⑧現代文芸・都市文化論 の8分野の中から、2分野選択すること。
学科試験 II	300点	文化・芸術活動の「計画書」を提出し、口頭試問を受ける。 計画書には参考資料を添付することができる。 参考資料：過去の活動の履歴、そして自分の作品 (の記録)、 あるいは自分が参画した活動・作品の記録等。

注1) 参考資料には、自作ないし自分の活動であることの証明を付ける必要があります。
証明：指導教員による証明書、活動の中心的関係者による証明書、コンペの応募控え (原本) 等。証明書は本学指定の書式を用いてください。(書式13)

注2) 「計画書」はA4版あるいはA2版のクリアファイル1冊にまとめ、必ず表紙に受験番号を表記して提出してください。参考資料をファイルに入れられない場合は、各資料にも受験番号を記して下さい。

注3) 「計画書」は学科試験 I の試験終了後に回収します。

2. 検査科目及び日時

(1) 特別選抜

7月17日 (火) ~ 7月18日 (水) に実施します。

日時と場所についての通知は、7月6日 (金) に発送します。

試験の結果は7月27日 (金) 発送の郵便で通知します。その結果合格とならなかった者は、筆記試験を受験する事ができます。

(2) 筆記試験選抜

期 日	科 目 名	時 間
8月21日 (火)	英 語※ (注) P.6~8 参照	
	学科試験 I	9時00分~11時00分
	学科試験 II (口頭試問)	13時00分~

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I の試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書 (原本のみ、コピー不可)、「計画書」を回収します。
- ・学力検査、面接の場所：横浜国立大学常盤台キャンパス
- ・受験にあたっての指示事項：学科試験 I では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

コース説明 4

都市地域社会専攻 都市地域社会コース（都市基盤系問題、地域社会系問題）

1. 学力検査内容

学力検査は「特別選抜」と「筆記試験選抜」のいずれかによって行われます。

(1) 特別選抜

試験内容	基礎科目（外国語を含む場合がある）、専門科目等に関する口述試験
------	---------------------------------

(2) 筆記試験選抜

外国語	100点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）P.6～8 参照 ※ただし、「地域社会系問題」を志望する者については、希望する研究分野により、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語・スペイン語から1ヶ国語を選択して試験を行うことができる。 また、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語についてはCEFR 準拠のスコアをもって、筆記試験受験に替えることができる。 [P.7～8 参照]
学科試験 I	200点	都市基盤系問題志望者は、数学 2 題のうち1題、及び構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、コンクリート工学から1分野を選び解答。 地域社会系問題志望者は、人文社会科学分野からの複数の記述問題から1題を選び解答。
学科試験 II	200点	研究計画書等にもとづいて、専門分野に関係する口述試験を行う。

2. 検査科目及び日時

(1) 特別選抜

7月17日（火）～7月18日（水）に実施します。

日時と場所についての通知は、7月6日（金）に発送します。

試験の結果は7月27日（金）発送の郵便で通知します。その結果合格とならなかった者は、筆記試験を受験する事ができません。

(2) 筆記試験選抜

期 日	科 目 名	時 間
8月21日（火）	学科試験 I	9時00分～11時00分
	外国語※ <small>（注）P.6～8 参照</small>	11時30分～12時30分
8月22日（水）	学科試験 II（口述試験）	14時00分～

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I の試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア、ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語については CEFR 準拠のスコアのスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を回収します。地域社会系問題志望者で、他の外国語の筆記試験による選抜を選択した者のみ、上記日時に筆記試験を実施します。
- ・学力検査、面接の場所：横浜国立大学常盤台キャンパス
- ・受験にあたっての指示事項：学科試験 I では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

コース説明 5

都市地域社会専攻 国際基盤学コース (IGSI)

1. 学力検査内容

学力検査は「特別選抜」と「筆記試験選抜」のいずれかによって行われます。

(1) 特別選抜

試験内容	基礎科目 (外国語を含む場合がある)、専門科目等に関する口述試験
------	----------------------------------

(2) 筆記試験選抜

外国語	100点	英語 (TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜) P.6~8 参照
学科試験 I	200点	数学 2 題のうち 1 題を解答。ならびに、構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、コンクリート工学、国際都市計画から 1 分野を選び解答。
学科試験 II	200点	研究計画書等にもとづいて、専門分野に関係する口述試験を行う。

2. 検査科目及び日時

(1) 特別選抜

7月17日 (火) ~ 7月18日 (水) に実施します。

日時と場所についての通知は、7月6日 (金) に発送します。

試験の結果は7月27日 (金) 発送の郵便で通知します。その結果合格とならなかった者は、筆記試験を受験する事ができます。

(2) 筆記試験選抜

期 日	科 目 名	時 間
8月21日 (火)	英 語※ (注) P.6~8 参照	9時00分~11時00分
	学科試験 I	
8月22日 (水)	学科試験 II (口述試験)	14時00分~

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I の試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書 (原本のみ、コピー不可) を回収します。
- ・学力検査、面接の場所：横浜国立大学常盤台キャンパス
- ・受験にあたっての指示事項：学科試験 I では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

Ⅲ 私費外国人留学生特別入試募集要項

1. 出願資格

次のいずれか一つに該当する者

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者または平成25年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者または平成25年3月31日までに学士の学位を取得見込みの者^[注2]
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者または平成25年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者または平成25年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者または平成25年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）
- (8) 個別の審査により、大学を卒業したと同等以上の学力があると本学が認めた者で、平成25年3月31日までに22歳に達する者^[注3、4]

[注1] 上記以外の出願資格は認定しません。

[注2] 出願資格(2)における平成25年3月31日までに学士の学位を取得見込みの者とは、学位規則第6条第1項の規定に基づき大学評価・学位授与機構が定めている要件を満たすものと認定した短期大学および高等専門学校に置かれた専攻科修了見込みの者で、平成24年10月までに大学評価・学位授与機構に学位の授与を申請した者です。

[注3] 出願資格(8)に該当するものとは、上記(1)～(7)に該当しない者で、本大学院の個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等の学力があると認めた者で、平成25年3月31日までに22歳に達する者です。

※主に該当する者は、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者など大学卒業資格を有していない者、または大学卒業までに16年を要しない国の大学を卒業した者で、大学教育修了後、日本国内または外国の大学、国立大学共同利用機関等これに準ずる研究機関において、研究生、研究員等として1年以上研究に従事した者です。

[注4] 出願資格(8)により出願しようとする場合は、あらかじめ志望先の教員と相談のうえ、**平成24年5月21日(月)から5月23日(水)17時までの間**に下記の書類を大学院都市イノベーション学府係まで提出し、出願資格の認定を受けてください。出願書類の受付は、郵送もしくは大学院都市イノベーション学府係の窓口への提出とし、期間内必着とします。出願資格認定審査は、本学大学院都市イノベーション学府において行い、審査の結果は**平成24年6月8日(金)**発送の郵便で本人宛に通知します。

※出願資格(8)により出願を希望する者

- (1) 出願資格認定申請書(書式4)
- (2) 出願資格認定用経歴調書(書式5)
- (3) 最終学歴の卒業(見込み)証明書又は在学期間(見込み)証明書
- (4) 最終学歴の成績証明書
- (5) 研究業績調書(書式6)

- (6) 研究計画書（書式7）
- (7) 350 円の切手（速達料を含む）を貼付した住所及び氏名明記の返信用封筒（長3）

[注4] により出願資格を有すると認められた者は、**平成24年6月18日（月）から6月21日（木）**に所定の出願手続きをしてください。（一度提出した書類は、出願手続の時必要としません。）

その他、出願資格について不明な点は大学院都市イノベーション学府係に問い合わせてください。

2. 私費外国人留学生特別入試募集人員

専攻	コース及び問題	募集人員
建築都市文化専攻	建築都市文化コース「建築系問題」	若干名
	建築都市デザインコース (Y-GSA)	若干名
都市地域社会専攻	都市地域社会コース「都市基盤系問題」	若干名
	国際基盤学コース (IGSI)	若干名

①出願上の注意

- (1) 都市地域社会専攻では、都市地域社会コース「都市基盤系問題」を第1志望とした場合、国際基盤学コース (IGSI) を第2志望として希望できます。
第2志望を希望する場合は、入学願書の第2志望欄に必要事項を記入してください。
- (2) 建築都市文化コース「建築系問題」、都市地域社会コース「都市基盤系問題」、国際基盤学コース (IGSI) を志願する者は、願書提出前に志望先教員あるいは問い合わせ先担当教員と相談してください。
建築都市デザインコース (Y-GSA) では、入試前に教員と受験者との事前の面談は行っていません。また、出願書類に指導教員の名前を書く必要はありません。
問い合わせ先教員等は、30 ページを参照してください。
- (3) 建築都市文化コース「都市文化系問題」、横浜都市文化コース (Y-GSC) 及び都市地域社会コース「地域社会系問題」では、私費外国人留学生特別入試を行いませんので志願する者は、一般入試に出願（受験）してください。

3. 入学者選抜方法

私費外国人留学生特別入試では、「特別選抜」又は「筆記試験選抜」によって入学者選抜を行います。

- ※1 9ページの、「選抜のプロセス」を参照してください。
- ※2 建築都市デザインコース (Y-GSA) では特別選抜を行いません。

(1) 特別選抜

特別選抜を志願できる者は、出身大学内での**成績順位が上位1／3以内**でなければなりません。なお、やむを得ず成績順位を出していない大学からの出願者は総修得単位に占める**評価点80点以上の評価が1／2以上**でなければなりません。

また、特別選抜の受験を希望する者に対しては、「6. 特別選抜の実施方法」により受験資格を認定し、受験資格者に対してのみ特別選抜を行います。

志願する者は、事前に指導を希望する教員とコンタクトを取ったうえで、申請してください。

※なお、特別選抜を受験し不合格であった場合は、改めて出願書類(検定料を含む)を提出しなくても「筆記試験選抜」を受験することができます。

(2) 筆記試験選抜

筆記試験選抜は、外国語、専門科目試験、口述試験等により行います。

4. 出願期間

平成24年6月18日（月）から6月21日（木）までとします。

出願書類の受付は郵送扱いのみで、**期間内必着**とします。窓口受付は行いません。

受付期限後到着のものは受理しないので、郵便事情を十分考慮し早めに送付してください。

ただし、平成24年6月20日（水）までの発信局消印のある書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理します。
 [注] 土曜日、日曜日、休日は、郵便業務を行わない郵便局があるので事前に確認してください。

5. 出願手続

出願する者は、下記の書類及び入学検定料を添えて、本学所定の封筒を使用し、志望コース及び問題等を記入の上、書留郵便で送付してください。

出願書類等	注意事項	書式番号
入学願書	用紙は本学交付のもの。(外国人留学生用を使用してください。表・裏有り。)	2
卒業(見込)証明書	出身大学(在籍大学)作成のもの。ただし、外国人留学生でやむ得ず卒業証書の写をもって代える場合は必ず卒業証書を事前に窓口に呈示ください。	
最終学歴成績証明書	出身大学(在籍大学)の学長又は学部長により作成されたもの。	
写真	縦4cm、横3cmのもの2枚。(出願前3か月以内に撮影したもの。) 写真は受験票及び入学願書に貼付してください。	
入学検定料	払込金額：30,000円 払込期間：出願期間に間に合うように払い込んでください。 払込場所： ① 海外在住の志願者及び日本国内居住の外国人留学生志願者 クレジットカード(VISA・MasterCard・JCB・American Express・MUFG・DC・UFJ・NICOS)・中国銀聯網決済により払込むことができます。 詳細は本学ウェブサイト(http://www.ynu.ac.jp/)の「入試・入学」のページをご覧ください。 ② 日本国内居住の日本人及び外国人留学生志願者 【郵便局・ゆうちょ銀行の場合】 ・土曜日・日曜日・休日は払込ができませんので注意してください。 ・本冊子綴じ込みの、本学所定の「払込書」を使用してください。(ATMから払込むことはできません。必ず受付窓口で払込んでください。) ・「払込取扱票」のご依頼人欄に、入学志願者(本人)の住所・氏名・電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。 ・「振替払込受領証」および「振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、必ず受付局日附印を確認してください。 【コンビニエンスストアの場合】 *セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート、サークルK・サンクスのみ ・店内にある情報端末機を利用して払込を行ってください。(ATMでは振込できません。必ずレジで払込んでください。) ・操作の手順は別紙の案内書「入学検定料支払い方法のご案内」を参照してください。 [注1] 振込済みの「郵便振替払込受付証明書」、「収納証明書」、「支払い完了通知のメール画面を印刷したもの」を所定の貼付用紙(書式14)の欄に貼り付けて出願書類に同封してください。入学検定料が払込まれていない場合やそれらを貼り付けていない場合は出願を受理しません。 [注2] 各支払に係る手数料は、入学志願者本人の負担となります。 [注3] 日本政府(文部科学省)国費留学生は不要です。(出願の際、必ず 国費給与証明書 を同封してください。)	14
研究計画書	指導教員を希望した理由、現在までの学業との関係及び入学後の研究計画をA4版用紙1ページにまとめたもの。志望コース、指導を希望する教員名、氏名を記入してください。 作成に当たっては疑問点があれば各コースの問い合わせ先担当教員(P.30)あるいは希望する指導教員に問い合わせてください。 ※「建築都市文化コース建築系問題」及び「建築都市デザインコース(Y-GSA)」の志願者は提出不要です。	7
返信用封筒1通 (特別選抜希望者は2通)	本冊子綴じ込みの長形3号の封筒に住所、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手(350円)を貼付してください。	
住所氏名記入シール	用紙は本学交付のもの。住所、氏名、郵便番号を記入してください。(切り離さないでください。)	
外国人留学生履歴書	用紙は本学交付のもの。記入は日本語又はローマ字体を用いてください。〔但し出願資格(1)による出願者は除きます。〕	11

登録原票記載事項証明書	出願前3か月以内に交付されたもの。 日本に居住する外国人は、市区町村長の発行する登録原票記載事項証明書を提出してください。その他の外国人は、パスポートの写しを提出してください。	
-------------	---	--

〔注1〕特別選抜の受験を希望する者は、上記に加えて次の書類を提出してください。

特別選抜受験希望に係る出願書類	注意事項	書式番号
出願資格証明書	成績順位の記述または総単位に占める評価点80点以上の評価の割合の証明書。用紙は本学交付のものを使用し、厳封してください。	8
推薦書	特別選抜を受験することに関する推薦書。記述は、受験者を良く知る者（指導教員等）であれば構いません。ただし、やむを得ず記述する者がいない場合は、自己推薦書でもかまいません。	9
入学確約書		10

6. 特別選抜の実施方法

(1) 受験資格の認定方法

特別選抜の受験希望者については、出願時に提出した出願書類によって、受験資格者を決定します。

なお、出願有資格者のうち、特別選抜の受験有資格者とならなかった者は、筆記試験選抜で受験することができます。

受験資格の認定結果は、**平成24年7月6日（金）** 発送の郵便で通知します。

(2) 特別選抜の選抜方法

受験資格認定者に対して、口述試験、面接及び出願書類審査により選抜を行います。

(3) 特別選抜実施日時

平成24年7月17日（火）～7月18日（水） に実施します。

日時と場所についての通知は、**平成24年7月6日（金）** に発送します。

試験の結果は、**平成24年7月27日（金）** 発送の郵便で通知します。

その結果合格とならなかった者は、筆記試験選抜を受験することができます。

7. 筆記試験選抜の検査科目及び日時

(1) 筆記試験選抜日時

期 日	科 目 名
8月21日（火）	外国語（注）参照
	学科試験Ⅰ
	学科試験Ⅱ（筆記試験）
8月22日（水）	日本語
	学科試験Ⅱ（面接・口述試験）

- ・詳細は、P.21以降の各コースの説明を参照してください。
- ・受験者は、語学以外の学力検査科目に限り語学の辞書を使用することができますが、電子辞書は使用できません。
- ・受験者は、日本語以外の学力検査科目の解答に英語を使うことを認めます。
- ・筆記試験及び面接の教室割等は、平成24年8月3日（金）15時以降から試験当日までの間、大学院都市イノベーション学府掲示板に掲示します。（巻末地図参照）

(注) 入学試験科目の外国語試験について

本学府入学試験における「英語 (TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜)」とします。

[TOEIC、TOEFL、IELTS スコアについて]

- 対象となる試験と提出するスコア証明書 (原本のみ、コピー不可) は以下のとおりです。

対象となる試験	提出するスコア証明書
TOEIC または TOEIC-IP	Official Score Certificate (公式認定証) TOEIC-IP についてはスコアレポート
TOEFL (PBT、iBT、ITP)	Examinee Score Report (受験者用控えスコア票) TOEFL-ITP についてはスコアカード
IELTS	Test Report Form (公式の成績証明書)

- 学科試験当日に合計得点の最も高いスコア証明書 (原本のみ、コピー不可) を提出すること。なお、提出可能なスコア証明書は学科試験当日から起算して **2年以内** のものとします。これらの提出がない場合は外国語 (英語) の試験の点数を 0 点とみなします。なお、提出されたスコア証明書は面接時に返却します。
- TOEIC のスコアは下記の関係を用いて 100 点満点に換算し外国語 (英語) の点数とします。
換算方法 (TOEIC ベース)
349 点以下 : 0 点
350~500 点 : (TOEIC-350) /3 0~ 50 点
500~800 点 : (TOEIC-500) /6+50 50~100 点
801 点以上 : 100 点
- TOEIC と TOEFL の得点の換算に関しては、TOEFL の得点を以下の方法により TOEIC の得点に換算します。
 - TOEFL-iBT の得点は Educational Testing Service (ETS) のウェブサイトにある換算表により TOEFL-PBT の得点に換算します。TOEFL-ITP の得点は TOEFL-PBT の得点とみなします。
 - TOEFL-PBT の得点は、 $(\text{TOEFL-PBT 得点}-296) \div 0.348 = \text{TOEIC 得点}$ により TOEIC の得点に換算します。
- IELTS の得点の換算については、以下のとおりとします。
7 点以上の場合 : 100 点
4 点以上 7 点以下の場合 : $(\text{IELTS}-1) \times 50/3$ 点
3 点以上 4 点以下の場合 : $(\text{IELTS}-3) \times 50$ 点
3 点以下の場合 換算得点 : 0 点
- 小数点以下の得点は四捨五入します。

8. 合格者発表

平成24年9月13日(木) 15時頃に都市イノベーション学府掲示板に掲示するとともに、9月13日(木) 発送の郵便で合格者には通知します。なお、電話による照会には応じません。

募集人員に欠員が生じた場合は、追加合格により補充する場合があります。

追加合格の通知は、入学願書に記載された現住所への電話連絡及び郵便により行います。追加合格に関する問い合わせは一切受け付けません。

9. 入学時に必要な経費

- (1) 入学料 282,000円 (現行)
[ただし、日本政府 (文部科学省) 国費留学生は不要です。]
- (2) 授業料 年額 535,800円 (現行)
[ただし、日本政府 (文部科学省) 国費留学生は不要です。]

[注1] (1) は、入学手続期間 (平成25年3月11日(月)～3月14日(木)(※3月12日(火)は窓口受付は行いません。)) に納入してください。詳細は、手続き書類と一緒に平成25年2月下旬に郵送します。
上記の手続き期間内に手続きを完了しない場合には入学辞退者とします。

[注2] 入学料及び授業料は、改定される場合があります。

[注3] 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新しい授業料が適用されます。

10. 注意事項

- (1) 試験当日は必ず受験票を携帯してください。
- (2) 出願手続後の提出書類の内容変更は認めません。
- (3) 在留資格「留学」を取得するに当たっては、留学生生活を維持できる経済的基盤を有している必要があります。
- (4) 官公庁又は会社等に在職している者は、入学手続の際、その長又は代表者の就学承認書(様式は任意)を必要としますので、あらかじめ用意してください。
- (5) 入学試験に関する問い合わせは、返信用封筒(住所、氏名を明記し、80円切手を貼付)又は返信用はがきを同封し、大学院都市イノベーション学府係宛てに照会してください。
- (6) 本試験に関する変更等が生じた場合は、直ちに出願者に通知します。
- (7) 各コースから課された入学試験科目(学科試験、日本語、面接)の1科目でも受験しなかった場合は、失格となりますのでご注意ください。
- (8) 入学手続き後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしません。
- (9) 入学後の経済支援制度として、「入学料・授業料免除等制度」・「奨学金制度」等があります。

11. 各コース問い合わせ先一覧

問い合わせ先は、30ページを参照してください。

コース説明 1

建築都市文化専攻 建築都市文化コース（建築系問題）

1. 学力検査内容

学力検査は「特別選抜」と「筆記試験選抜」のいずれかによって行われます。

(1) 特別選抜

試験内容	基礎科目（外国語を含む場合がある）、専門科目等に関する口述試験
------	---------------------------------

(2) 筆記試験選抜

外国語	100点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）P. 19 参照
学科試験 I	200点	①建築史・建築芸術、建築計画 ②都市計画、都市環境管理計画 ③建築材料構法、建築環境工学 ④建築構造学 ⑤映像史・映像論 ⑥音楽音響史・音楽音響論 ⑦現代アート・現代思想 ⑧現代文芸・都市文化論 の8分野の中から、第一志望教育分野に関する科目を含めて2分野 選択すること。
学科試験 II	200点	建築史・建築芸術、建築計画、都市計画、都市環境管理計画、建築材 料構法、建築環境工学、鋼構造学、鉄筋コンクリート構造学の中から、 第一志望分野に関する1科目を選択する筆記試験と面接を行う。
日本語	—	日本語能力を確認する。

2. 検査科目及び日時

(1) 特別選抜

7月17日（火）～7月18日（水）に実施します。

日時と場所についての通知は、**7月6日（金）**に発送します。

試験の結果は**7月27日（金）**発送の郵便で通知します。その結果合格とならなかった者は、筆記試験を受験する事ができません。

(2) 筆記試験選抜

期 日	科 目 名	時 間
8月21日（火）	英 語 [※] （注）P. 19 参照	
	学科試験 I	9時00分～11時00分
	学科試験 II（筆記試験）	12時30分～14時00分
8月22日（水）	日 本 語	9時00分～10時00分
	学科試験 II（面接）	14時00分～

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I の試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を回収します。
- ・学力検査、面接の場所：横浜国立大学常盤台キャンパス
- ・受験にあたっての指示事項：学科試験 I、学科試験 II（筆記試験）では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

コース説明 2

建築都市文化専攻 建築都市デザインコース (Y-G S A)

1. 学力検査内容

学力検査は「筆記試験選抜」によって行われます。

(1) 筆記試験選抜

外国語	100点	英語 (TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜) P.19 参照
学科試験 I	200点	①建築史・建築芸術、建築計画 ②都市計画、都市環境管理計画 ③建築材料構法、建築環境工学 ④建築構造学 ⑤映像史・映像論 ⑥音楽音響史・音楽音響論 ⑦現代アート・現代思想 ⑧現代文芸・都市文化論 の8分野の中から、2分野選択すること。
学科試験 II	300点	「即日設計」：与えられた設計課題をA2版の用紙にプレゼンテーションする。(200点) 「ポートフォリオおよび面接」：自作の建築作品2点で構成するものを提出、口頭試問を受ける。(100点)
日本語	—	日本語能力を確認する。

備考1 「ポートフォリオ」は、自作であることを証明できる建築作品2点で構成するものを提出します。そのポートフォリオのサマリーも提出します。

注1) 自作であることを証明：大学の検印 (図面に直接押印されたもの)、コンペの応募控え (原本) 等と指導教員による証明書。証明書は本学指定の書式を用いてください。(書式12)

注2) 作品及び証明書類はA2版のクリアファイル1冊にまとめ、必ず表紙に受験番号を表記して提出してください。

注3) ポートフォリオサマリー：建築作品2点の内容を図版を用いてA4用紙1枚に要約したものです。ポートフォリオサマリーには受験番号を記入してください。

備考2 「即日設計」は与えられた設計課題を5時間でA2版ケント紙1枚にプレゼンテーションするものです。

注1) 製図板、A2版ケント紙、トレーシングペーパーは試験会場で用意されます。紙類 (トレーシングペーパー、方眼紙、ケント紙等) の持ち込みはできません

注2) 表現はフリーハンドでよいが、必要ならばT定規、勾配定規、ドラフティングテープ等は持参すること。それ以外、他の受験生に迷惑のかからないプレゼンテーション道具の使用は自由です。

注3) 平行定規、PC、プリンターは使用できません。

2. 検査科目及び日時

(1) 筆記試験選抜

期 日	科 目 名	時 間
8月21日 (火)	英 語 [※] (注) P.19 参照	
	学科試験 I	9時00分～11時00分
	学科試験 II (即日設計)	12時30分～17時30分
8月22日 (水)	日 本 語	9時00分～10時00分
	学科試験 II (面接)	12時30分～

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I の試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書 (原本のみ、コピー不可)、ポートフォリオおよびポートフォリオサマリーを回収します。
- ・学力検査、面接の場所：横浜国立大学常盤台キャンパス
- ・受験にあたっての指示事項：学科試験 I では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

コース説明 3

都市地域社会専攻 都市地域社会コース（都市基盤系問題）

1. 学力検査内容

学力検査は「特別選抜」と「筆記試験選抜」のいずれかによって行われます。

(1) 特別選抜

試験内容	基礎科目（外国語を含む場合がある）、専門科目等に関する口述試験
------	---------------------------------

(2) 筆記試験選抜

外国語	100点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）P. 19 参照
学科試験 I	200点	数学 2 題のうち 1 題、及び構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、コンクリート工学から 1 分野を選び解答。
学科試験 II	200点	研究計画書等にもとづいて、専門分野に係る口述試験を行う。
日本語	—	日本語能力を確認する。

2. 検査科目及び日時

(1) 特別選抜

7月17日（火）～7月18日（水）に実施します。

日時と場所についての通知は、7月6日（金）に発送します。

試験の結果は7月27日（金）発送の郵便で通知します。その結果合格とならなかった者は、筆記試験を受験する事ができません。

(2) 筆記試験選抜

期 日	科 目 名	時 間
8月21日（火）	英 語※（注）P. 19 参照	9時00分～11時00分
	学科試験 I	
8月22日（水）	日 本 語	9時00分～10時00分
	学科試験 II（口述試験）	14時00分～

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I の試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を回収します。
- ・学力検査、面接の場所：横浜国立大学常盤台キャンパス
- ・受験にあたっての指示事項：学科試験 I では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

コース説明 4

都市地域社会専攻 国際基盤学コース (IGSI)

1. 学力検査内容

学力検査は「特別選抜」と「筆記試験選抜」のいずれかによって行われます。

(1) 特別選抜

試験内容	基礎科目（外国語を含む場合がある）、専門科目等に関する口述試験
------	---------------------------------

(2) 筆記試験選抜

外国語	100点	英語（TOEIC、TOEFL、IELTS のスコアを用いた選抜）P. 19 参照
学科試験 I	200点	数学 2 題のうち 1 題に解答。ならびに、構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、コンクリート工学、国際都市計画から 1 分野を選び解答。
学科試験 II	200点	研究計画書等にもとづいて、専門分野に関係する口述試験を行う。

2. 検査科目及び日時

(1) 特別選抜

7月17日（火）～7月18日（水） に実施します。

日時と場所についての通知は、7月6日（金） に発送します。

試験の結果は 7月27日（金） 発送の郵便で通知します。その結果合格とならなかった者は、筆記試験を受験する事ができます。

(2) 筆記試験選抜

期 日	科 目 名	時 間
8月21日（火）	英 語 [*] （注）P. 19 参照	
	学科試験 I	9時00分～11時00分
8月22日（水）	学科試験 II（口述試験）	14時00分～

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入ってください。
- ・学科試験 I の試験終了後に、TOEIC、TOEFL、IELTS のスコア証明書（原本のみ、コピー不可）を回収します。
- ・学力検査、面接の場所：横浜国立大学常盤台キャンパス
- ・受験にあたっての指示事項：学科試験 I では、プログラム機能を持たない関数電卓を持参し使用することができます。

IV 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例 による教育の実施について (社会人技術者又は研究者に対する大学院教育の特例)

近年、大学院における社会人技術者又は研究者の継続研修・再教育及び博士の学位取得の要望が高まっておりますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は最低博士課程前期は2年間、博士課程後期は3年間その勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されがちです。

一方、大学院設置基準（文部科学省令）第14条では、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定されており、社会人等の就学に配慮がなされています。これらの背景を踏まえ同条に定める教育方法の特例を大学院での履修を希望する社会人技術者又は研究者に対し運用します。

なお、特例の内容は次のとおりです。

- (1) 修学年限（博士課程前期2年、博士課程後期3年）のうち1年間は、原則として、全日登学をすること。
- (2) 特例による授業は平日の夜間（17時50分～19時20分）に開設するが、昼間の授業を含めた全時間帯の受講を許可する。
- (3) 博士課程前期では学業に専念する1年間は主として修士研究に充てられるように修了に必要な授業の単位修得は夜間（17時50分～19時20分）の授業を利用して行うよう履修計画を立てること。したがって、学業に専念する期間における昼間の受講は夜間に開講されていない授業に限ることが望ましい。
- (4) 入学に当たっては、指導教員の指導のもとに、博士課程前期は2年間、博士課程後期は3年間を見通した履修計画をたてること。
- (5) 修学年限で修了するのが勤務の都合上無理な場合は、あらかじめ博士課程前期は3～4年間、博士課程後期は4～6年間にわたる履修計画をたてることも考慮すること。
- (6) 「特例」による履修計画の変更はその都度申し出て許可を得ること。

本学大学院都市イノベーション学府は、上記特例の適用によって、勤務を離れる期間を1年間に短縮する条件を醸成することにより、通常の方法のみでは実現することが難しい社会人技術者の大学院入学の機会を与えて、継続研修及び再教育の場を提供することを目指しております。研究のテーマに柔軟性を持たせ、企業での実践的研究も、その研究が修士・博士研究にふさわしければ認めるなど、社会人の入学を橋渡しとして、大学と産業界との交流を深め、新しい学問と技術の発展に寄与することも特例を実施する目的の一つであります。

長期履修学生について

長期履修学生とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限(博士課程前期2年、博士課程後期3年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することが認められた者をいいます。

長期履修学生に認定された者は、一般の学生とは異なり、修学年数に関係なく、標準修業年限(博士課程前期2年、博士課程後期3年)分の授業料で修学することができます。

1. 申請資格

長期履修学生として申請することができる者は、入学後も職業を有している社会人としません。

2. 申請の手続き

長期履修学生の申請を希望する者は、次の手順に従い手続きを行ってください。下記手続きのひとつでも怠ると審査の対象者とならないので注意すること。

①出願前

出願前に、P. 30 の各コース等問い合わせ先担当教員に長期履修学生の適用を希望する旨申し出ること。

②出願時

入学願書の長期履修学生適用希望欄にチェックを入れること。

③入学手続き時

長期履修学生を希望する者は、次の(1)、(2)の書類を入学手続き時に提出してください。

- (1) 長期履修学生申請書(別紙様式1:平成25年2月下旬の入学手続き書類送付時に送付予定(上記①②の手続きを行った者にも送付))
- (2) 在職証明書又は在職が確認できる書類
- (3) 提出期間は、**平成25年3月11日(月)～3月14日(木)(※3月12日(火)は窓口受付は行いません。)(期間厳守)**で、入学手続き書類と同封のうえ、大学院都市イノベーション学府係へ提出してください。

3. 可否の認定

申請書類に基づき審査のうえ、認定の可否を決定し、4月中旬に通知します。

4. 在学期間

長期履修学生の在学期間は、博士課程前期にあつては2年以上4年まで、博士課程後期にあつては3年以上6年までとなります。

なお、各年度の修了月は、3月のほかに6月、9月、12月となっていますので、長期履修学生申請書に修了予定年月を記入してください。

5. 授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は、授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を在学期間の年数で除した額となります。

注) 在学中に授業料の改定が行われた場合には再計算された額となります。

(算出例1) 博士課程前期の長期履修学生申請者が在学期間3年と認定された場合

$$535,800 \text{ 円} \times 2 \text{ 年} \div 3 \text{ 年} = 357,200 \text{ 円}$$

(授業料の年額) (標準修業年限) (認定された在学期間) (長期履修学生の授業料年額)

(算出例2) 博士課程後期の長期履修学生申請者が在学期間5年と認定された場合
 $535,800 \text{ 円} \times 3 \text{ 年} \div 5 \text{ 年} = 321,480 \text{ 円}$
(授業料の年額) (標準修業年限) (認定された在学期間) (長期履修学生の授業料年額)

6. 在学期間の短縮

長期履修学生は、認定された在学期間の短縮により修了することができます。

在学期間の短縮を希望する者は、当該学年を修了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間短縮願」を提出し、承認を得なければなりません。

* 詳細については必ず窓口にご相談すること。

7. 在学期間の延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は、在学期間の延長をすることができます。

在学期間の延長を希望する者は、在学期間が満了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間延長願」を提出し、承認を得なければなりません。ただし、在学期間の延長は1度限りです。

なお、在学期間は、博士課程前期4年、博士課程後期6年を超えることができません。

また、在学期間延長後の授業料は、標準修業年限(博士課程前期2年、博士課程後期3年)分の授業料からすでに納付済みの授業料を差し引いた分を延長期間で新たに算出し、納付することになります。

8. その他

長期履修学生の申請にあたっては、入学願書出願前までに志望指導教員とよく相談してください。

V 身体に障害のある入学者の事前相談について

下表に該当する者（出願受付締切後の不慮の事故による負傷者等を含む）は、受験及び修学上特別な措置を必要とすることが起こり得ますので、出願する前に必ず都市イノベーション学府係へ次の様式により事前に相談してください。なお、次表から判断できない場合については、お尋ねください。

区 分	身 体 障 害 の 程 度
視覚障害	両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴覚障害	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもので、補聴器等の使用によっても通常の話し声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号にかかげる程度に達しないものうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの

(様式) A4 判縦	平成 年 月 日
横浜国立大学長 殿	ふりがな 氏 名 生年月日 住 所 〒 電話番号
横浜国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。 記	
1. 志望する学府・専攻・コース 2. 身体の障害の種類、程度 3. 受験に際しての希望する受験特別措置 4. 入学後の修学に際して希望する特別措置 5. そ の 他	
(添付書類) 診断書または身体障害者手帳 (写)、その他参考資料	

VI 検定料の返還を請求する場合について

次の場合を除き、いかなる理由があっても出願書類を受理した後の払込済みの入学検定料の返還は行いません。

(1) 検定料の返還ができるもの

- ①入学検定料を払い込んだが横浜国立大学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合
- ②入学検定料を誤って二重に払い込んだ場合

(2) 検定料の返還請求の方法

以下①～⑤の項目を明記した入学検定料返還請求願（様式は問わない）を作成し、必ず、検定料支払・払込証明書（「郵便振替払込受付証明書」、「収納証明書」、「支払い完了通知のメール画面を印刷した物」）を添付して、速やかに郵送してください。

- ①返還請求の理由 ②氏名（ふりがな） ③現住所 ④連絡電話番号 ⑤試験の種類

(3) その他

- ①検定料の返還（払戻し）には相当の日数がかかりますのでご了承ください。
- ②出願が受理されなかった場合については、本学から別途返還に必要な書類を郵送します。
- ③返還額は、返還の際に要する手数料が差し引かれた額となりますのでご了承ください。

送付先：〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79 番 5 号
横浜国立大学 大学院都市イノベーション学府係 宛

Ⅶ 各コース等問い合わせ先担当教員一覧

専攻名	コース及び選択する問題	担当教員名	電話番号*	メールアドレス
建築都市文化	建築都市文化			
	建築系問題	河端 昌也	4061	mkwbt@ynu.ac.jp
	都市文化系問題	彦江 智弘	3336	hikoe@edhs.ynu.ac.jp
	建築都市デザイン (Y-GSA)	寺田真理子	4071	ygsa@ynu.ac.jp
	横浜都市文化 (Y-GSC)	彦江 智弘	3336	hikoe@edhs.ynu.ac.jp
都市地域社会	都市地域社会			
	都市基盤系問題	鈴木 崇之	4036	suzuki-t@ynu.ac.jp
	地域社会系問題	松本 尚之	3428	hisashi@ynu.ac.jp
	国際基盤学 (IGSI)	鈴木 崇之	4036	suzuki-t@ynu.ac.jp

*問い合わせ先電話番号は、「045-339- (表中の電話番号)」としてお掛けください。

*博士課程後期「都市イノベーション専攻」への問い合わせは、表中の志望するコース及び問題の問い合わせ先で対応します。

都市イノベーション学府博士課程前期の概要については、下記都市イノベーション学府ウェブサイトをご確認ください。

<http://www.urban.ynu.ac.jp/>

※建築都市文化コース「建築系問題」、都市地域社会コース、国際基盤学コースを志願する場合は、願書提出前に志望先教員あるいは問い合わせ先担当教員と相談すること。

※建築都市文化コース「都市文化系問題」、建築都市デザインコース (Y-GSA)、横浜都市文化コース (Y-GSC) では、入試前に教員と受験者との事前の面談は行っていません。

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5
横浜国立大学大学院都市イノベーション学府係
TEL:045-339-3826

VIII 担当教員一覧

建築都市文化専攻

職位	氏名	担当授業科目の名称	主な担当コース	研究内容のキーワードと概要
教授	梅本 洋一	都市と芸術 S 映像芸術スタジオ Y-GSC ワークショップ 映像芸術論B 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース ・横浜都市文化コース Y-GSC	映画論、映像論、映画批評史、批評理論、演劇史。 ヌーヴェルヴァーグ以降の映像がもたらした都市と映像の新たな関係性の追求。
教授	大原 一興	環境心理学 インターンシップ(建築計画) 環境行動論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	建築および環境の計画と人間—環境系理論の研究。 高齢社会・成熟社会における生活環境(住宅、福祉・文化・教育施設、都市および農村環境)の計画論。ヒューマンエコロジーの環境学。公共施設の参加のデザイン、エコミュージアムの計画。
教授	北山 恒	横浜建築都市学 S 横浜建築都市学 F 都市再生デザインスタジオ インターンシップ(Y-GSA) Y-GSA インディペンデント・スタジオ Y-GSA ワークショップA(理論) Y-GSA ワークショップB(実践)	・建築都市デザインコース Y-GSA	建築デザイン、都市理論。 グローバル化に伴う都市間競争に対応する都市再生を追求し、次の時代の環境を創造するアプローチ。
教授	小嶋 一浩	横浜建築都市学 S 横浜建築都市学 F 次世代環境空間制御デザインスタジオ インターンシップ(Y-GSA) Y-GSA インディペンデント・スタジオ Y-GSA ワークショップA(理論) Y-GSA ワークショップB(実践)	・建築都市デザインコース Y-GSA	建築デザイン、都市理論。 アジア等を中心に展開する環境制御を追求し、20世紀の先進諸国が経験した開発主義の制御を行うアプローチ。
教授	佐土原 聡	地域・都市環境計画論 インターンシップ(設備設計) 地域・都市環境管理論 GISによる地域解析概論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	都市環境のデザイン・マネジメント、地域冷暖房、地域エネルギーシステム、都市の危機管理・防災、安全・環境調和まちづくり、生態系サービスを活かした都市、地理情報システム(GIS)。
教授	高見澤 実	都市居住環境論 都市イノベーションと起業 インターンシップ(建築計画) インターンシップ(都市イノベーションと起業) 市街地創造論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	専門分野は都市計画、まちづくり、市街地整備、住環境マネジメント。それらの計画理論、事業手法、主体形成、制度システム等を研究。また、海外の都市計画システムや都市計画理論をひろく研究し、都市マスタープラン策定、条例策定・運用などにかかわる。
教授	田川 泰久	建築構造性能論 インターンシップ(構造設計) 建築耐震設計論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	鉄骨構造及び鋼コンクリート合成構造の耐震設計法に関する研究。 鉄骨構造骨組の終局耐力および塑性変形能力、鉄骨造接合部の終局耐力、合成梁部材の塑性変形能力、RC 建造物の鉄骨部材による耐震補強。
教授	田才 晃	建築構造性能論 インターンシップ(構造設計) 建築耐震改修論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	鉄筋コンクリート造建築物の耐震安全性に関する研究、建造物の応答制御に関する研究、耐震設計法の開発、既存建造物の耐震改修に関する研究、地震災害における構造被害の調査と分析。
教授	西澤 立衛	横浜建築都市学 S 横浜建築都市学 F 次世代環境創造デザインスタジオ インターンシップ(Y-GSA) Y-GSA インディペンデント・スタジオ Y-GSA ワークショップA(理論) Y-GSA ワークショップB(実践)	・建築都市デザインコース Y-GSA	建築デザイン、都市理論。 ヨーロッパ等を中心に展開する持続可能性を追求し、次の時代の新たな環境を創造するアプローチ。
教授	室井 尚	都市と芸術 F 現代アートスタジオ Y-GSC ワークショップ アーバンアート論A 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース ・横浜都市文化コース Y-GSC	情報文化論、メディア美学、文化研究、記号論、現代思想。アートと社会、文化と社会との結びつきを理論と実践の両面から多角的に探求していく。

職位	氏名	担当授業科目の名称	主な担当コース	研究内容のキーワードと概要
教授	茂木 一衛	音響空間スタジオ 都市音響論 Y-GSC ワークショップ 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース ・横浜都市文化コース Y-GSC	西洋芸術音楽に関する音楽学的研究。作品分析に基づく音楽の歴史的美学的な研究成果の、演奏実践への応用。歴史と現代におけるコンサートホール、オペラ劇場、聖堂等、様々な都市音楽空間での演奏音響実態の研究。
教授	吉田 綱市	インターンシップ(建築計画) 西洋・近代建築史論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	西洋と西洋近代の建築と建築理論に関する歴史的な研究。建築の美学的な側面に関する歴史的な研究。建築と街並みの保存の歴史と理念に関する研究。実測調査に基づく神奈川の近代建築に関する研究。
准教授	大野 敏	建築理論スタジオ インターンシップ(建築計画) 日本建築保存修復論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	遺構を中心とした日本建築史研究。特に厨子の建築様式を主眼とした仏堂・社殿内部空間の研究。近世民家を中心とした住宅史研究。文化財建造物の保存に関する理論およびその実践のための伝統的建築技法の保存継承に関する研究。
准教授	河端 昌也	建築構造工学スタジオ インターンシップ(構造設計) 大空間建築構造論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	大スパン建築構造物の耐風、耐雪安全性に関する研究、テンション材の活用による架構方法の合理化に関する研究、形状決定と外力に対する挙動の解析方法に関する研究。
准教授	楠 浩一	建築構造工学スタジオ インターンシップ(構造設計) 建築応用振動論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	主に鉄筋コンクリート造建物を対象とした建物の地震時挙動の解明、巨大地震後の建物の安全性評価法の開発、耐震設計法の改善と開発、および実被害建物の調査分析。
准教授	樽沼 範久	都市と芸術 F 現代アートスタジオ Y-GSC ワークショップ アーバンアート論B 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース ・横浜都市文化コース Y-GSC	生態哲学／建築・画像論 ダーウインの自然史、ギブソンの知覚生態学、ベイトソンの精神生態学などを読み直しながら、建築・画像などの人工物も媒介にした、生きた世界の作りかたと作られかたを探索しています。
准教授	田中 稲子	環境都市デザインスタジオ インターンシップ(設備設計) 建築環境共生論 建築都市文化専攻特別演習	・建築都市文化コース	建築の温熱・光環境に関する環境計画研究。住まい方による建築の省エネルギー化、住環境教育に関する研究。
准教授	野原 卓	都市居住環境論 環境都市デザインスタジオ インターンシップ(建築計画) 都市デザイン論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	専門は、都市デザイン、景観、まちづくり。 都市空間のデザイン及びマネジメント、資源・歴史・景観を活かしたまちづくりに関する研究及び実践的プロジェクト活動と調査分析。
准教授	彦江 智弘	都市と芸術 S 文芸メディア創作スタジオ 都市文芸論 Y-GSC ワークショップ 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース ・横浜都市文化コース Y-GSC	フランス文学(20世紀小説)、現代文学、フランス文化、映画批評。
准教授	深井 一夫	インターンシップ(設備設計) 建築温熱環境論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	建築温熱環境の評価ならびに形成に関する研究。 温熱生理心理と室内熱環境評価、床暖房システムの計画と評価、建物の熱特性解析、屋上・壁面緑化の計画と評価、エコキャンパス計画。
准教授	藤岡 泰寛	建築理論スタジオ インターンシップ(建築計画) 持続型集住論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	住居・住環境・コミュニティに関わる建築計画研究。持続可能な居住地計画、コハウジング、ライフスタイルの研究。建築・都市づくり・デザインやマネジメントに誰もが参画できる方法論の探求と実践。

職位	氏名	担当授業科目の名称	主な担当コース	研究内容のキーワードと概要
准教授	藤原 徹平	横浜建築都市学 S 横浜建築都市学 F 地域再生デザインスタジオ インターンシップ(Y-GSA) Y-GSA インディペンデント・スタジオ Y-GSA ワークショップ A(理論) Y-GSA ワークショップ B(実践)	・建築都市デザインコース Y-GSA	建築デザイン、都市理論。 グローバル化が呼び起こすローカル化の追求に対応する地域の多様性を生かす研究。世界各地の港湾都市と横浜との比較研究。社会の仕組みの変化に連動した新しいビルディングタイプ・プログラム研究。
准教授	松本 由香	建築構造性能論 建築構造工学スタジオ インターンシップ(構造設計) 構造物弾塑性解析論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	建築物の構造安全性、特に鉄骨構造物の耐震性能に関する研究。架構や構造部材の耐力及び変形性能の予測に関する研究。構造物の必要性能に関する多角的検討。地震被害の調査と分析。
准教授	吉田 聡	地域・都市環境計画論 環境都市デザインスタジオ インターンシップ(設備設計) 地域省エネルギー計画論 GISによる地域解析概論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	建築・地域の省エネルギー化、低炭素化に関する研究。 エネルギー負荷の低減、エネルギーの高効率利用、環境負荷の小さいエネルギーの活用等に関する、技術、評価、およびマネジメント手法に関する研究。
助教	江口 亨	建築理論スタジオ 建築維持活用論 建築都市文化特別演習	・建築都市文化コース	建物の長期利用のための方法論に関する研究。SIなどのオープンビルディングの設計手法、建築のアダプタビリティ、コンバージョン・リノベーション等の既存建築ストックの活用手法、それらを通じた都市再生。
教授	清田 友則	都市と芸術 F 文芸メディア創作スタジオ 比較文化論 Y-GSC ワークショップ	・建築都市文化コース ・横浜都市文化コース Y-GSC	サブカルチャー、ジェンダー、セクシュアリティ、精神分析、文学理論、文化政治批評。
准教授	平倉 圭	都市と芸術 S 映像芸術スタジオ Y-GSC ワークショップ 映像芸術論 A	・建築都市文化コース ・横浜都市文化コース Y-GSC	映像論、近現代美術論、知覚論。映像によって思考する方法の探求と実践。
講師	寺田 真理子	横浜建築都市学 S 横浜建築都市学 F インターンシップ(Y-GSA) Y-GSA ワークショップA(理論) Y-GSA ワークショップB(実践)	・建築都市デザインコース Y-GSA	空間リテラシー、キュレーション、編集、企画。 建築と都市の概念を拡張していくような視点から、メディアとしての新しいコミュニケーション・デザインを研究する。

都市地域社会専攻

職位	氏名	担当授業科目の名称	主な担当コース	研究内容のキーワードと概要
教授	勝地 弘	集積都市域の防災マネジメントと社会基盤メンテナンススタジオ インターンシップ(都市基盤) 都市防災システム論 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGS1	安全・安心・快適な社会の実現をテーマに、橋梁の空力振動問題、強風予測、強風災害リスクアナリシス、構造物の振動問題、構造設計論などの研究を行っている。
教授	小林 良彰	公共政策論 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース	日本や欧米だけでなく、アジアにおける先進国や開発途上国を対象とした市民意識や政治制度・行政制度・地方自治制度などの分析や国際比較研究を行っている。また、大都市制度や市民参加、地域活性化など様々な公共政策の研究を行っている。
教授	佐々木 淳	水圏の防災環境計画スタジオ インターンシップ(都市基盤) 水圏環境論 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGS1	東京湾をはじめ国内や途上国の沿岸域を対象として、物理・化学・生物過程を総合した現地観測と数値モデルに基づく環境予測、GISを用いた評価手法の開発、および環境再生技術に関する研究を展開している。
教授	白水 紀子	地域研究と異文化理解 F アジア・途上地域研究スタジオ インターンシップ(異文化交流) アジア社会文化論 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース	専門分野は中国・台湾の近現代文学およびジェンダー研究。東アジアにおける近代の問題を、近代家族の形成、ジェンダー・ポリティクスとセクシュアリティの編成などをテーマに研究している。
教授	須川 英徳	地域研究と異文化理解 S 都市社会と地域 アジア・途上地域研究スタジオ インターンシップ(異文化交流) アジア社会経済論 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース	韓国の歴史・社会・文化、なかでも14-19世紀の社会経済史を専門分野としている。また、日本と韓国の歴史認識、問題関心と接近方法の違いも研究領域としている。 朝鮮史、韓国、社会経済史、日韓関係、歴史認識。
教授	谷 和夫	都市の地盤防災と地盤環境 地盤防災と地盤環境マネジメントスタジオ インターンシップ(都市基盤) 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGS1	専門分野は、岩盤工学、地盤工学、地盤環境工学、応用地質学、資源開発工学である。主に、地質・地盤の調査・試験方法、地盤構造物の安定性評価、廃棄物の地層処理技術、ハイドロレートの採掘技術を主な研究テーマとしている。
教授	椿 龍哉	地域性を考慮した都市基盤施設の耐震耐久性設計スタジオ インターンシップ(都市基盤) 都市基盤環境相関学 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGS1	コンクリート工学、耐震・耐久設計、複合構造。鉄筋コンクリート構造物およびプレストレストコンクリート構造物の安全性と耐久性の向上、高性能セメント系複合材料の開発等に関する研究を行う。
教授	中村 文彦	都市基盤と地域開発 都市と交通の連携方策と地域計画スタジオ インターンシップ(都市基盤) 都市基盤政策論 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGS1	専門分野は、土木計画学のうち、特に都市交通計画である。都市計画との連携や環境問題、安全問題との関連性に重視した計画の実践的な課題の検討を行っている。特に公共交通やTDM、TSM関連の諸課題を多く取り上げている。
教授	山田 均	集積都市域の防災マネジメントと社会基盤メンテナンススタジオ インターンシップ(都市基盤) 都市基盤安全設計学 維持管理計画学 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGS1	長大橋をはじめとする新しい社会基盤構造物を対象に、土木工学、風工学、鋼構造、橋梁工学、長周期構造システム、空力弾性学、構造動力学をキーワードとした諸課題について研究を行っている。
准教授	于 臣	地域研究と異文化理解 S アジア・途上地域研究スタジオ インターンシップ(異文化交流) アジア社会文化論 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース	日中両国における政治・経済・社会・文化面の近代化に対する比較考察を行うと同時に、両国の近代化を可能にした文化的要因を考察する。また東アジア共同体について歴史的視座からあらためて検討してみたい。
准教授	小ヶ谷 千穂	地域研究と異文化理解 F 都市社会と地域 アジア・途上地域研究スタジオ インターンシップ(異文化交流) 途上地域発展論 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース	専門は国際社会学・国際労働移動論。フィリピンを中心にアジアにおける人の国際移動とジェンダー・労働・家族の問題について研究を行っている。

職位	氏名	担当授業科目の名称	主な担当コース	研究内容のキーワードと概要
准教授	菊本 統	地盤防災と地盤環境マネジメントスタジオ インターンシップ(都市基盤) 地盤環境と廃棄物 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGSI	地盤工学、地盤環境工学、応用力学を専門としている。地盤の変形・破壊や保水・浸透のモデルの開発とその地盤解析技術への応用および地盤防災・減災への展開に関する研究に取り組んでいる。
准教授	鈴木 崇之	水圏の防災環境計画スタジオ インターンシップ(都市基盤) 水圏防災論 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGSI	海岸工学、特に沿岸域における波浪特性と漂砂の問題、砂浜の地形変化モデルの構築の研究に従事。また、沿岸域の海象特性、沿岸環境に関する研究も行っている。
准教授	西尾 真由子	集積都市域の防災マネジメントと社会基盤メンテナンススタジオ インターンシップ(都市基盤) 都市基盤構造材料学 維持管理計画学 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGSI	構造工学、特に橋梁を対象に構造物の安全性・信頼性向上に関わる研究に従事。センサ技術を用いた、実構造物の振動特性解析、健全性診断。数値解析法に関する研究も行っている。
准教授	長谷川 秀樹	地域研究と異文化理解 F 欧米都市文化研究スタジオ インターンシップ(異文化交流) 現代社会文化論 A 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース	フランス社会学。現代フランス語圏文化社会研究。コルシカ島の地域研究。日本とフランスの文化・社会政策を比較し、まちづくりや生活と関連づけたツーリズムのあり方を考察する。
准教授	早野 公敏	地盤防災と地盤環境マネジメントスタジオ インターンシップ(都市基盤) 地盤設計学 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGSI	地盤の変形と破壊、土構造物の設計と補修、地盤材料の調査と試験、地盤の環境保全と改良、建設発生土の有効利用、地震に強い地盤のデザイン、土構造物のメンテナンスなどの研究に取り組んでいる。
准教授	細田 暁	地域性を考慮した都市基盤施設の耐震耐久性設計スタジオ インターンシップ(都市基盤) 耐震耐久設計学 維持管理計画学 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGSI	コンクリート工学、メンテナンス工学を専門としている。コンクリート構造物の高耐久化、維持管理の技術に関する研究と、それらを実構造物で達成するためのマネジメントの研究を行っている。
准教授	松原 宏之	地域研究と異文化理解 S 欧米都市文化研究スタジオ インターンシップ(異文化交流) 現代社会文化論 A 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース	専門分野は歴史学。十九世紀から二十世紀初頭のアメリカ合衆国を主なフィールドにした政治文化史。ジェンダー、人種、科学、社会運動、社会政策、都市政治といったトピックを横断する統合史。
准教授	松行 美帆子	地域コミュニケーション論 グローバル都市論 都市地域社会特別演習	・都市地域社会コース ・国際基盤学コース IGSI	専門分野は都市計画・まちづくり。とくに開発途上国の都市・地域計画、都市問題、都市環境政策に関する研究、日本や欧州の環境共生型の都市計画に関する研究を行っている。
教授	矢内 光一	欧米都市文化研究スタジオ 文化交流論	・都市地域社会コース	専門分野は哲学・西洋哲学史、特に古代ギリシア哲学。プラトン哲学、とりわけその宇宙論の構造と歴史的生成および展開を中心にすえながら、世界観・人間観の基本的な問題を研究している。
准教授	大須賀 史和	地域研究と異文化理解 S 欧米都市文化研究スタジオ インターンシップ(異文化交流) 現代社会文化論 B	・都市地域社会コース	哲学・倫理学、ロシア思想史(社会・政治・文化)。主要なテーマは、東方正教の影響下に構想された宗教哲学における人間論、存在論、言語論で、日本や欧米の諸潮流との比較研究も行っている。
准教授	小宮 正安	欧米都市文化研究スタジオ インターンシップ(異文化交流) 現代社会文化論 B	・都市地域社会コース	中央ヨーロッパの文化史、社会史・オーストリアのウィーンを足がかりとしながら、「一つのヨーロッパ」という考え方が歴史や文化に与えた影響に関する研究をおこなっている。
准教授	松本 尚之	地域研究と異文化理解 F アジア・途上地域研究スタジオ インターンシップ(異文化交流) 途上地域発展論	・都市地域社会コース	専門は文化人類学、アフリカ地域研究。特にナイジェリアをフィールドとし、国家政治と民族文化の関係や、都市移民の生活戦略に関する調査・研究を行っている。

IX 提出用書式集

以下のページには、受験するために必要な提出書類の書式を集めており、いろいろな書式の使い方についてまとめてあります。

書式番号	書式タイトル	利用方法および使用にあたっての注意
書式 1	博士課程前期 一般入学願書	綴じ込まれている用紙を使用
書式 2	博士課程前期 外国人留学生入学願書	綴じ込まれている用紙を使用
書式 4	出願資格認定申請書 ・ 前期一般出願資格 (8) ・ 前期外国人留学生出願資格 (8)	綴じ込まれている用紙を使用
書式 5	出願資格認定用経歴調書 ・ 前期一般出願資格 (8) ・ 前期外国人留学生出願資格 (8)	綴じ込まれている用紙を使用してもよいが、この書式でA4用紙にワープロなどで印字して提出しても構いません。
書式 6	研究業績調書 ・ 前期一般出願資格 (8) ・ 前期外国人留学生出願資格 (8)	綴じ込まれている用紙を使用してもよいが、この書式でA4用紙にワープロなどで印字して提出しても構いません。
書式 7	研究計画書 ・ 前期一般 ・ 前期一般出願資格 (8) ・ 前期外国人留学生出願資格 (8)	綴じ込まれている用紙を使用してもよいが、この書式でA4用紙にワープロなどで印字して提出しても構いません。ただし、本文は 1,000 字以内で作成してください。
書式 8	出願資格証明書 ・ 前期特別選抜	綴じ込まれている用紙を使用
書式 9	推薦書 ・ 前期特別選抜	綴じ込まれている用紙を使用
書式 10	入学確約書	綴じ込まれている様式を参照
書式 11	外国人留学生履歴書	綴じ込まれている用紙を使用
書式 12	自作証明書 (建築都市デザインコース (Y-GSA))	綴じ込まれている用紙を使用
書式 13	自作証明書 (横浜都市文化コース (Y-GSC))	綴じ込まれている用紙を使用
書式 14	検定料支払(払込)受付証明書貼付用紙 (入学検定料 30,000 円)	綴じ込まれている用紙を使用